

鮎壺公園の管理・運営を 考える勉強会

発行：長泉町建設計画課 ☎ (055) 989-5520

鮎壺公園の管理・運営を考える勉強会を開催しました！

長泉町ではこれまで、「鮎壺公園の利活用を考えるワークショップ」を開催し、住民が主体となった公園の活用や維持管理について、町民のみなさんと一緒に考えてきました。

愛される、魅力的な「使われ続ける公園」になるためには、使い手である地域のみなさんの協力が不可欠です。

今回は、令和6年度中の開園に向けて、「鮎壺公園のために自分たちでできること」へのイメージを膨らませるため、勉強会を開催しました。



開催概要

日時：2022年3月24日（木）

19：00～

会場：防災センター1階

参加者：9名

19：00 開会

19：00～ あいさつ・趣旨説明・プログラム説明

19：05～ 勉強会

①鮎壺公園の整備概要と整備スケジュール

②近年の公園管理のあり方

③公園の魅力づくりのあり方

④公園管理・運営の先進事例

19：50～ 参加者からの質問・意見

20：40 閉会



参加者の皆さん、真剣な表情で説明を聞いていました。



勉強会のふりかえり

人口減少＋高齢化、公園のニーズが変わっていくなか、これからの公園はどうあるべき？

住民参加

計画段階や維持管理、運営などに住民が関わる
▶住民目線でより使いやすく、魅力的な公園に！

周辺地区の まちづくりへの波及効果

公園への住民の愛着が高まり、人が訪れるようになる
公園の維持管理や運営に自治会や住民が関わる
▶公園の周囲に人の動きができ、活気生まれる
▶地区のコミュニティが強化される
▶イベント実施などで地区での暮らしをより楽しく

共助のまちづくりの実現

全国的に公共サービスの低下が予測されている
▶地元が協力しあって解決する“共助”が大切

住民参加のポイント

自分たちがやりたいこと、
やれることから始める

・無理せず、「やりたいこと」「やれること」から始めていく

複数の団体やグループで
協力して輪を広げていく

・複数の団体やグループが協力して進めていく
・仲間を増やしながら、進めていくことも大切

行政と連携して進める

・町と相談しながら、必要な協力や支援を受けながら進める

参加者のコメント

資金源は大切だと思う。例えば施設の貸出や、レストランの売り上げで資金源を確保し、その中で芝生等の維持管理をしているといった仕組みも分かればありがたいと思った。また、管理者を常駐にするのかということも考える必要がある。

官民で連携した公園づくりの必要性は理解できたが、実際にやるとなるとイメージが湧きづらい。

ただ1回きりで決めることは難しいが、こういった会を繰り返し行うことでかたちができってくると思う。

事例 週末の沼津ーNumazu Weekend Marketー

お隣の沼津市では、沼津中央公園を活用して、毎月第1土曜日に定期マーケットを開催しています。

「週末の沼津実行委員会」が地元の店舗と協力しながら、飲食販売や休憩できるスペースとして公園を活用しています。

「使い方」の工夫により今ある公園に賑わいを創出し、人に使われる空間に変えていった魅力的な事例です。



©週末の沼津 Facebook